23.ローマとユダヤの 情報源からはイエス について何が得られ ますか?

文献の中で最初にイエスにつ いて言及があるのはおそせれるの はおりな献で、世紀 を半りから2世紀前半に生きの とはいいでで見出せまから はキリストの出来事から はキリの時期です。

最も古くかつ有名なイエスの明確な言及は I 世紀終わりごろの歴史家のフラウィウス・ヨセフス(ユので、ユダヤ、 (表XVIII,63-64)によるもので、といる記言した。全てギリンスをでいます。全で残っています。ではイエスはメシアではないとにおり、ではイエスはメシアではないよりではイエスはメシアではないます。このではイエスはメシアではないます。このでは、こので者はこの著作は中世の複写家

によって加筆されたとの見解をとっ ています。今日、学者たちはヨセフ スの原文は10世紀にヒエラポリス の司教のアガペが引用しているアラ ビア語で残っているものにより近い のではないかと考えており、そこに は加筆したと思われるところがあり ません。それは次のように語ってい ます「その頃、イエスという賢明な 人が善徳を行い高潔さで知られてい ました。イエスには弟子として多く のユダヤ人とその他の市民がいまし た。かれはピラトにより十字架上の 磔刑に処されて死にました。しかし ながら、その弟子たちはイエスの死 後も弟子であることをやめず、イエ スは十字架につるされて3日後に現 われて生きており、イエスは預言者 たちが素晴らしいことを話していた そのメシアに違いないと語っていま す。

2世紀のローマの著者たちの作品の中で(小プリニウス、書簡集XV44、

スエトニウス クラウディウスの生涯 25,4) イエスの人物およびその追随 者についていくつかの言及がなされ ています。

ユダヤの情報源からは、特にタル ムードのなかで、イエスおよびイエ スについて語っているある種の事柄 について種々の言及があります。こ のある種の事柄はキリスト教徒によ る操作の疑いのない情報源から歴史 的詳細に実証可能なものです。ユダ ヤの学者の一人であるジョセフ・ク ラウスナーはイエスに関してタル ムードが述べるところから導き出せ る結論を次のように要約していま す。「信頼できる言述によると彼の 名前はナザレのヨシュアで、"魔術を 行い"(すなわち、当時はやりの奇跡 を起こし)、人々を扇動しそして悪 路をイスラエルに導きました。律法 学者の言葉を愚弄しファリサイ派の 律法書に対し同様の見解を述べまし た。5人の弟子を連れており、律法

を廃止したりそれに付け加えるため に来たのではないと語りました。そ して過越祭の前夜に偽りの指導者で 扇動者として十字架につるされまし た(土曜日に下ろされました)。彼 の弟子たちは彼の名のもとに病人の 治療にあたりました」。〈ジョセ フ・クラウスナー、ナザレのイエス P44〉つまるところ、歴史的な視点 に立つと正確さが要求されようが、 これで全てではないが少なくもな い、これらの情報源から推定できる ことは十分に明示的であるというこ とです。これらの情報をローマの著 者のものと対比させると、イエスが 存在してその生涯に関する重要な情 報が含まれていることを歴史的な確 かさで確認することが可能です。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/23-romatoyudayanoqing-bao-yuan-

karahaiesunitsuitehe-gade-raremasuka/ (2025/12/11)